

津山市の農政、教育行政は

★津山新星会議 小椋 多



質問↓人・農地プランのその後は。

答弁↓昨年12月に、農協の支店単位で市内全域を包括する8つのプランを作成して各種支援制度を受けられることとなった。広範なプランとなったことで、貸出希望農地の把握があまり出来ていないが、今後は制度の周知を図っていききたい。また、農地基本台帳とのデータの共有を図り、各種支援策が確実に受けられるようにしていきたい。

質問↓津山市の目指す教育とは。

答弁↓本年3月に策定した「津山市学校力向上推進プラン」に基づき、このプランの目指す学校像「子どもたちが生き生き学び、楽しく遊び友達を作り、自分であることに誇りを持ち、夢と希望を育むことの出来る、分かる授業、楽しい学校」を実現していく。

農業、林業の振興策

★日本共産党津山市議員 久永良一



質問↓森林・林業再生のカギは、地域材需要の大幅な拡大。あらゆる会合等に外向き、森林を守る意義と地域材使用促進をお願いする。県議会で県産材使

用を呼びかける決議を要請する。県産材を使用した住宅建築への補助を県と市あわせて100万円とする。森づくり新聞を市公報に定期的に入れる。

答弁↓「木の国美作推進協議会」等を通じて、できる応援を行っていく。県に対して要望を行う。市の補助金は総合的に検討する。今年度は森林・林業の特集号にも取り組む。

質問↓集落営農の担い手確保は定住にも結びつく重要課題。そばの生産・消費でまちおこしを提案する。

答弁↓できる限り国の制度を活用できるような支援していきたい。そばの生産を振興していくことは望ましいと考える。

「健康つやま21」の取り組みは

公明党津山市議員 岡安謙典

質問↓「健康つやま21」の総括と今後の取り組みは。

答弁↓第1次の取り組みでは、目標である健康寿命の延伸について、平成19年度の中間評価値に比べ、男性は2・1歳、女性は1・0歳延伸し、生活習慣病など健康分野に設定した数値目標も6割改善された。一方、特定健診やがん検診率は伸び悩んでおり、今後の市民の健康づくりに向けた大きな課題がある。第2次では、「からだの健康づくり」として特定健診やがん検診の受診率向上に取り組む。具体的には、集

市長答弁では生の声が届いていない、談合情報はこれまでになく信ぴょう性がある

★山田 誠



談合情報の提供者が現役の建設業者で市内組織の重要な役割にあること、また入札案件ごとに業者数が増えまくる配分されていること、これは業者間の協議が整ったのか、談合というのか。

質問↓①PPP問題のうち、農業部門に絞って、市長の基本的な考え方は。②答弁↓①PPP交渉では、農林水産分野の重要5品目等の聖域の確保を最優先し、それができないと判断した場合は脱退も辞さないとの決議がなされている。本市の製造業の中には輸出が拡大することにより受注が拡大し、好影響を受ける企業もある。交渉の行方と政府対応を注視してまいりたい。②今回は一般競争入札(電子入札)で行われ、入札への参加不参加は自由。業者は多くの課題をクリアして参加したものである。



団検診をこれまでの5回から7回に、市内全域で10ヶ所を健診会場にして受診しやすい環境づくりに努める。また、今年度から「健康応援隊」「健康キャンペーン」に取り組む。